

セ:タ:
数ⅡB 60%

数学2B ベクトル編



まず数学2B6割狙うで！



第1問

平面上に一辺の長さが1である正三角形OPQがある。直線OQに関してPと対称な点をRとし、直線OPに関してQと対称な点をSとする。PSを $a:(1-a)$ ($0 < a < 1$)に内分する点をA、ORを $b:(1-b)$ ($0 < b < 1$)に内分する点をBとする。ベクトル \vec{OP} , \vec{OQ} をそれぞれ \vec{p} , \vec{q} とおく。

(1) \vec{OA} , \vec{OB} を \vec{p} , \vec{q} で表すと、 $\vec{OA} = \vec{p} - \boxed{\text{ア}} \vec{q}$, $\vec{OB} = -\boxed{\text{イ}} \vec{p} + \boxed{\text{ウ}} \vec{q}$ であるから、 \vec{AR} と \vec{BQ} は、 $\vec{AR} = -\boxed{\text{エ}} \vec{p} + (\boxed{\text{オ}} + \boxed{\text{カ}}) \vec{q}$,
 $\vec{BQ} = \boxed{\text{キ}} \vec{p} + (\boxed{\text{ク}} - \boxed{\text{ケ}}) \vec{q}$ となる。ただし、 $\boxed{\text{オ}}$ と $\boxed{\text{カ}}$ は解答の順序を問わない。これより、 $\vec{AR} \cdot \vec{BQ} = \frac{1}{\boxed{\text{コ}}} (\boxed{\text{サ}} a - \boxed{\text{シ}} b - ab)$ である。

(2) 2直線ARとBQが垂直に交わるとする。このとき、 b は a を用いて

$$b = \frac{\boxed{\text{ス}} a}{a + \boxed{\text{セ}}} \text{と表される。}$$

さらに $a = \frac{1}{2}$ とすると $|\vec{AR}| = \frac{\sqrt{\boxed{\text{ソタ}}}}{\boxed{\text{チ}}}$, $|\vec{BQ}| = \frac{\sqrt{\boxed{\text{ツテ}}}}{\boxed{\text{ト}}}$ であり、四角形

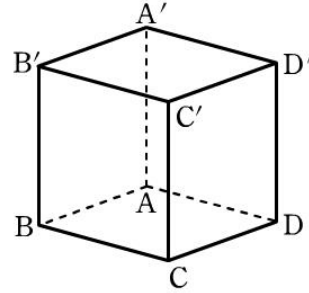
ABRQの面積は $\frac{\boxed{\text{ナニ}} \sqrt{\boxed{\text{ヌ}}}}{\boxed{\text{ネノ}}}$ である。

まず数学2B6割狙うで！



第2問

一辺の長さが1の、図のような立方体 $ABCD - A'B'C'D'$ において、 AB , CC' , $D'A'$ を $a : (1-a)$ に内分する点をそれぞれ P , Q , R とし、 $\overrightarrow{AB} = \vec{x}$, $\overrightarrow{AD} = \vec{y}$, $\overrightarrow{AA'} = \vec{z}$ とおく。ただし、 $0 < a < 1$ とする。



(1) \overrightarrow{PQ} , \overrightarrow{PR} を \vec{x} , \vec{y} , \vec{z} を用いて表すと

$$\overrightarrow{PQ} = (\text{ア} - \text{イ})\vec{x} + \vec{y} + \text{ウ}\vec{z}$$

$$\overrightarrow{PR} = \text{エオ}\vec{x} + (1-a)\vec{y} + \vec{z}$$

となる。したがって、 $|\overrightarrow{PQ}| : |\overrightarrow{PR}| = 1 : \text{カ}$,

$|\overrightarrow{PQ}|^2 = \text{キ}(a^2 - a + \text{ク})$, $\overrightarrow{PQ} \cdot \overrightarrow{PR} = a^2 - a + \text{ケ}$ であるから、 \overrightarrow{PQ} と \overrightarrow{PR}

のなす角は コサ° である。

(2) 三角形 PQR の重心を G とすると $\overrightarrow{DG} = \frac{\text{シ} + \text{ス}}{\text{セ}}(\vec{x} - \vec{y} + \vec{z})$ である。

いま、辺 $C'D'$ 上に $SQ = SR$ となるように点 S をとる。このとき、

$\overrightarrow{C'S} = \text{ソ}\overrightarrow{C'D'}$ となり、 $\overrightarrow{SD} = (\text{タ} - \text{チ})\vec{x} - \vec{z}$ である。

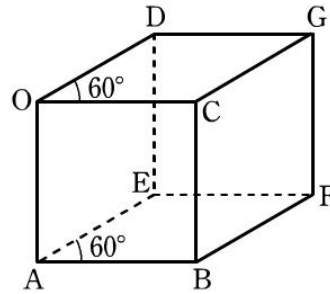
(3) \overrightarrow{SG} と \overrightarrow{DG} が垂直であるとき、 a の値は $\frac{\text{ツ}}{\text{テ}}$ であり、 $\angle QSR = \text{トナニ}^\circ$ となる。

まず数学2B6割狙うで！



第3問

右の図のように向かい合う面が平行である六面体 $OABC-DEFG$ がある。ただし、面 $OABC$, $CBFG$ は一辺の長さが1の正方形であり、面 $OCGD$ は $\angle COD=60^\circ$ のひし形である。



このとき $\vec{OA} \cdot \vec{OC} = \boxed{\text{ア}}$

$$\vec{OC} \cdot \vec{OD} = \frac{1}{\boxed{\text{イ}}} \text{ である。}$$

a を $0 < a < 1$ を満たす数とする。線分 EB を $2:1$ に内分する点を P , 線分 GE を $a:(1-a)$ に内分する点を Q とすると

$$\vec{PG} = -\vec{OA} + \frac{1}{\boxed{\text{ウ}}} \vec{OC} + \frac{\boxed{\text{エ}}}{\boxed{\text{ウ}}} \vec{OD}$$

$$\vec{PQ} = (a-1)\vec{OA} + \left(\frac{1}{\boxed{\text{オ}}} - \boxed{\text{カ}} \right) \vec{OC} + \frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{ク}}} \vec{OD} \text{ である。}$$

数学苦手でも合格したいならやるしかない！俺の解き方見てとにかく

まず数学2B6割狙うで！



第4問

四面体 $OABC$ において、辺 OA の中点を P 、辺 BC の中点を Q 、辺 OB の中点を S 、辺 CA の中点を T 、辺 OC の中点を V 、辺 AB の中点を W とする。

(1) $\vec{PQ} = -\frac{\text{ア}}{\text{イ}}\vec{OA} + \frac{\text{ウ}}{\text{エ}}\vec{OB} + \frac{\text{オ}}{\text{カ}}\vec{OC}$ である。

(2) $\vec{PQ} \cdot \vec{ST} = -\frac{\text{キ}}{\text{ク}}AB^2 + \frac{\text{ケ}}{\text{コ}}OC^2$ である。

数学苦手でも合格したいならやるしかない！俺の解き方見てとにかく

まず数学2B6割狙うで！



第5問

四面体の四つの頂点を， O ， L ， M ， N とする。線分 OL を $2:1$ に内分する点を P とし，線分 MN の中点を Q とする。 a と b を 1 より小さい正の実数とする。線分 ON を $a:(1-a)$ に内分する点を R とし，線分 LM を $b:(1-b)$ に内分する点を S とする。

$\vec{l} = \overrightarrow{OL}$ ， $\vec{m} = \overrightarrow{OM}$ ， $\vec{n} = \overrightarrow{ON}$ とおく。

$$(1) \quad \overrightarrow{RS} = (\boxed{\text{ア}} - \boxed{\text{イ}}) \vec{l} + \boxed{\text{ウ}} \vec{m} - \boxed{\text{エ}} \vec{n}$$

$$\overrightarrow{RP} = \frac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カ}}} \vec{l} - \boxed{\text{キ}} \vec{n}, \quad \overrightarrow{RQ} = \frac{\boxed{\text{ク}}}{\boxed{\text{ケ}}} \vec{m} + \left(\frac{\boxed{\text{コ}}}{\boxed{\text{サ}}} - \boxed{\text{シ}} \right) \vec{n}$$



四面体 OABC において、辺 OA を 1 : 2 に内分する点を D、辺 AB を 2 : 1 に内分する点を E とする。また、辺 OC の中点を F とする。

(1) $0 < a < 1$ として、線分 EF を $a : (1 - a)$ に内分する点を G とすると

$$\vec{OG} = \frac{1}{\boxed{\text{ア}}} (\boxed{\text{イ}} - \boxed{\text{ウ}}) \vec{OA} + \frac{\boxed{\text{エ}}}{\boxed{\text{オ}}} (\boxed{\text{イ}} - \boxed{\text{ウ}}) \vec{OB} + \frac{\boxed{\text{カ}}}{\boxed{\text{キ}}} \vec{OC}$$

(2) 3 点 O, B, C で定まる平面 OBC と直線 DG の交点を求めよう。点 P が直線 DG 上にあるとき、実数 t を用いて

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= \vec{OD} + t \vec{DG} \\ &= \frac{1 - \boxed{\text{ク}}}{\boxed{\text{ケ}}} t \vec{OA} + \frac{\boxed{\text{エ}}}{\boxed{\text{オ}}} (\boxed{\text{イ}} - \boxed{\text{ウ}}) t \vec{OB} + \frac{\boxed{\text{カ}}}{\boxed{\text{キ}}} t \vec{OC} \end{aligned}$$

と表せる。したがって、 $t = \frac{\boxed{\text{コ}}}{\boxed{\text{サ}}}$ のとき

$$\vec{OP} = \frac{\boxed{\text{シ}}}{\boxed{\text{スセ}}} (\boxed{\text{イ}} - \boxed{\text{ウ}}) \vec{OB} + \frac{\boxed{\text{ソ}}}{\boxed{\text{タ}}} \vec{OC} \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

であり、このとき、点 P は平面 OBC 上にある。したがって、① を満たす点 P が平面 OBC と直線 DG の交点である。

(3) (2) で求めた交点 P が辺 BC 上にあるのは $a = \frac{\boxed{\text{チ}}}{\boxed{\text{ツ}}}$ のときである。

数学苦手でも合格したいならやるしかない！俺の解き方見てとにかく
まず数学2B6割狙うで！



第7問

四面体 OPQR において、 $\overrightarrow{OP} = \vec{p}$, $\overrightarrow{OQ} = \vec{q}$, $\overrightarrow{OR} = \vec{r}$ とおく。

(1) $0 < a < 1$ として、線分 OP, QR を $a : (1-a)$ に内分する点をそれぞれ S, T とす

ると $\overrightarrow{OS} = \boxed{\text{ア}} \vec{p}$, $\overrightarrow{OT} = (\boxed{\text{イ}} - \boxed{\text{ウ}}) \vec{q} + \boxed{\text{エ}} \vec{r}$ である。

線分 OQ, PR の中点をそれぞれ U, W とし、線分 UW を $a : (1-a)$ に内分する点

を M とすれば $\overrightarrow{OM} = \frac{1}{\boxed{\text{オ}}} \{ \boxed{\text{カ}} \vec{p} + (\boxed{\text{キ}} - \boxed{\text{ク}}) \vec{q} + \boxed{\text{ケ}} \vec{r} \}$ である。

よって、M は線分 ST 上にあり $SM : ST = 1 : \boxed{\text{コ}}$ である。

直線 OM が三角形 PQR と交わる点を N とする。

このとき $\overrightarrow{ON} = \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}} + \boxed{\text{ス}}} \overrightarrow{OM}$ である。

さらに、点 N が三角形 PQR の重心 G と一致しているとする。このとき $a = \frac{\boxed{\text{セ}}}{\boxed{\text{ソ}}}$

(2) 次に、 $OP = OQ = \sqrt{2}$, $OR = 1$, $\angle POR = 90^\circ$ で、点 O と三角形 PQR の重心 G を通る直線 OG が三角形 PQR に垂直であるとき、 $\angle POQ$ の大きさと線分 OG の長さを求めよう。

直線 OG が三角形 PQR に垂直であるための条件は、 $\overrightarrow{OG} \cdot \overrightarrow{PQ} = 0$, $\overrightarrow{OG} \cdot \overrightarrow{QR} = 0$ であ

るから $\vec{q} \cdot \vec{r} = \boxed{\text{タ}}$, $\vec{p} \cdot \vec{q} = \boxed{\text{チツ}}$ である。よって $\angle POQ = \boxed{\text{テトナ}}^\circ$, $OG = \frac{\sqrt{\boxed{\text{ニ}}}}{\boxed{\text{ヌ}}}$ である。



a は $0 < a < 1$ を満たす数とする。辺 AB , AC の長さが等しい二等辺三角形 ABC に対し、辺 AB を $1:5$ に内分する点を P , 辺 AC を $a:(1-a)$ に内分する点を Q とする。また、線分 BQ と線分 CP の交点を K とし、直線 AK と辺 BC の交点を R とする。

(1) \overrightarrow{BQ} , \overrightarrow{CP} , \overrightarrow{AK} , \overrightarrow{AR} を \overrightarrow{AB} , \overrightarrow{AC} で表すと、それぞれ

$$\overrightarrow{BQ} = -\overrightarrow{AB} + \boxed{\text{ア}} \overrightarrow{AC}, \quad \overrightarrow{CP} = \frac{1}{\boxed{\text{イ}}} \overrightarrow{AB} - \overrightarrow{AC}$$

$$\overrightarrow{AK} = \frac{\boxed{\text{ウ}} - a}{\boxed{\text{エ}} - \boxed{\text{オ}}} \overrightarrow{AB} + \frac{\boxed{\text{カキ}}}{\boxed{\text{ク}} - \boxed{\text{ケ}}} \overrightarrow{AC}$$

$$\overrightarrow{AR} = \frac{\boxed{\text{コ}} - \boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}} a + \boxed{\text{ス}}} \overrightarrow{AB} + \frac{\boxed{\text{セソ}}}{\boxed{\text{タ}} a + \boxed{\text{チ}}} \overrightarrow{AC}$$

である。

数学苦手でも合格したいならやるしかない！俺の解き方見てとにかく

まず数学2B6割狙うで！



第9問

正四面体 $OABC$ において、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ 、 $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$ とする。辺 OA を $4:3$ に内分する点を P 、辺 BC を $5:3$ に内分する点を Q とする。

そのとき、 $\overrightarrow{PQ} = \frac{\text{アイ}}{\text{ウ}} \vec{a} + \frac{\text{エ}}{\text{オ}} \vec{b} + \frac{\text{カ}}{\text{キ}} \vec{c}$ である。

線分 PQ の中点を R とし、直線 AR が $\triangle OBC$ の定める平面と交わる点を S とする。

そのとき、 $AR : AS = \text{ク} : \text{ケ}$ である。また、 $\cos \angle AOQ = \frac{\text{コ}}{\text{サ}}$ である。



点 O を原点とする座標空間に4点 $A(1, 0, 0)$, $B(0, 1, 1)$, $C(1, 0, 1)$, $D(-2, -1, -2)$ がある。 $0 < a < 1$ とし、線分 AB を $a : (1-a)$ に内分する点を E , 線分 CD を $a : (1-a)$ に内分する点を F とする。

(1) \overrightarrow{EF} は a を用いて $\overrightarrow{EF} = (\text{アイ}a, \text{ウエ}a, \text{オ} - \text{カ}a)$ と表される。さら

に、 \overrightarrow{EF} が \overrightarrow{AB} に垂直であるのは $a = \frac{\text{キ}}{\text{ク}}$ のときである。

(2) $a = \frac{\text{キ}}{\text{ク}}$ とする。 $0 < b < 1$ として、線分 EF を $b : (1-b)$ に内分する点を G と

すると、 \overrightarrow{OG} は b を用いて $\overrightarrow{OG} = \left(\frac{\text{ケ} - \text{コ}b}{\text{サ}}, \frac{\text{シ} - \text{ス}b}{\text{サ}}, \frac{\text{セ}}{\text{サ}} \right)$

(3) (2)において、直線 OG と直線 BC が交わるときの b の値と、その交点 H の座標を求めよう。

点 H は直線 BC 上にあるから、実数 s を用いて $\overrightarrow{BH} = s\overrightarrow{BC}$ と表される。また、ベクトル \overrightarrow{OH} は実数 t を用いて $\overrightarrow{OH} = t\overrightarrow{OG}$ と表される。よって

$$b = \frac{\text{ソ}}{\text{タ}}, s = \frac{\text{チ}}{\text{ツ}}, t = \text{テ} \quad H \left(\frac{\text{ト}}{\text{ナ}}, \frac{\text{ニヌ}}{\text{ナ}}, \text{ネ} \right)$$

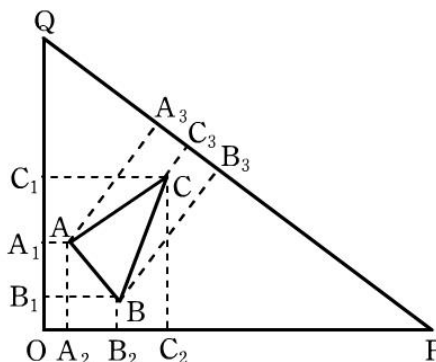
また、点 H は線分 BC を $\text{ノ} : 1$ に外分する。

数学苦手でも合格したいならやるしかない！俺の解き方見てとにかく
まず数学2B6割狙うで！



第11問

座標平面上の3点 $O(0, 0)$, $P(4, 0)$, $Q(0, 3)$ を頂点とする三角形 OPQ の内部に三角形 ABC があるとする。 A , B , C から直線 OQ に引いた垂線と OQ との交点をそれぞれ A_1 , B_1 , C_1 とする。 A , B , C から直線 OP に引いた垂線と OP との交点をそれぞれ A_2 , B_2 , C_2 とする。 A , B , C から直線 PQ に引いた垂線と PQ との交点をそれぞれ A_3 , B_3 , C_3 とする。



A_1 が線分 B_1C_1 の中点であり、 B_2 が線分 A_2C_2 の中点であり、 C_3 が線分 A_3B_3 の中点であるとする。

$\vec{AB} = (x, y)$, $\vec{AC} = (z, w)$ とおく。 A_1 が線分 B_1C_1 の中点であるから $w = \boxed{\text{ア}}$ y である。 B_2 が線分 A_2C_2 の中点であるから $z = \boxed{\text{イ}}$ x である。

線分 AB の中点を D とすると、 C_3 が線分 A_3B_3 の中点であるから $\vec{CD} \cdot \vec{PQ} = \boxed{\text{ウ}}$ である。

また、 $\vec{PQ} = (\boxed{\text{エオ}}, \boxed{\text{カ}})$, $\vec{CD} = \frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{ク}}} (\vec{AB} - \boxed{\text{ケ}} \vec{AC})$ であるから $y = \frac{\boxed{\text{コサ}}}{\boxed{\text{シ}}} x$ である。



紙片の上に図1のようなひし形 $ABCD_0$ があり、 $AB=AC=2$ とする。また、線分 AC の中点を O とする。この紙片を、図2のように空間の中で、 AC に沿って 60° だけ折り曲げ、点 D_0 の新しい位置を D とする。

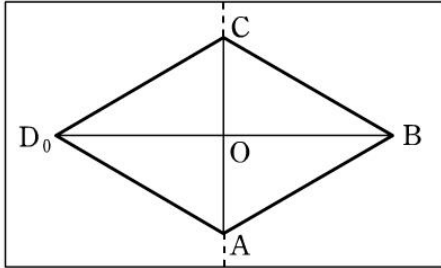


図1

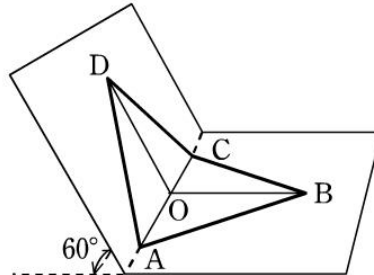


図2

- (1) このとき、 \vec{OB} , \vec{OC} , \vec{OD} についての内積を求めると

$$\vec{OB} \cdot \vec{OC} = \boxed{\text{ア}}, \quad \vec{OC} \cdot \vec{OD} = \boxed{\text{イ}}, \quad \vec{OB} \cdot \vec{OD} = \frac{\boxed{\text{ウエ}}}{\boxed{\text{オ}}} \text{ となる。}$$

- (2) a を $0 < a < 1$ を満たす数とし、線分 BD を $a : (1-a)$ の比に内分する点 P をとる。

このとき $\vec{OP} = (\boxed{\text{カ}} - \boxed{\text{キ}}) \vec{OB} + \boxed{\text{ク}} \vec{OD}$

$$\vec{PA} = (\boxed{\text{ケ}} - \boxed{\text{コ}}) \vec{OB} - \vec{OC} - \boxed{\text{サ}} \vec{OD}$$

数学苦手でも合格したいならやるしかない！俺の解き方見てとにかく
まず数学2B6割狙うで！



第13問

四面体 $OABC$ において、 $OA = OB = BC = \sqrt{2}$ 、 $OC = CA = AB = \sqrt{3}$ である。

$\vec{a} = \overrightarrow{OA}$ 、 $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$ 、 $\vec{c} = \overrightarrow{OC}$ とおく。

(1) $|\vec{a} - \vec{b}|^2 = \boxed{\text{ア}}$ であり、 $\vec{a} \cdot \vec{b} = \frac{\boxed{\text{イ}}}{\boxed{\text{ウ}}}$ である。

また、 $\vec{b} \cdot \vec{c} = \frac{\boxed{\text{エ}}}{\boxed{\text{オ}}}$ 、 $\vec{c} \cdot \vec{a} = \boxed{\text{カ}}$ である。

(2) 直線 AB 上の点 P を $\overrightarrow{CP} \cdot \vec{a} = 0$ であるようにとると $\overrightarrow{CP} = \frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{ク}}} \vec{a} + \frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コ}}} \vec{b} - \vec{c}$

となり、点 P は線分 AB を $1 : \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}}$ に内分する。また、 $\overrightarrow{CP} \cdot \vec{b} = \boxed{\text{ス}}$ であり、

$|\overrightarrow{CP}| = \frac{\sqrt{\boxed{\text{セソ}}}}{\boxed{\text{タ}}}$ である。

\overrightarrow{CP} は三角形 $\boxed{\text{チ}}$ の各辺と垂直であるから、直線 CP は三角形 $\boxed{\text{チ}}$ を含む平面に垂直である。ただし、 $\boxed{\text{チ}}$ については、当てはまるものを、次の ①～③ のうちから一つ選べ。

① ABC

② OBC

③ OAC

④ OAB

数学苦手でも合格したいならやるしかない！俺の解き方見てとにかく

まず数学2B6割狙うで！



第14問

平面上の三つのベクトル \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} は

$$|\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}| = |\vec{a} + \vec{b}| = 1$$

を満たし、 \vec{c} は \vec{a} に垂直で、 $\vec{b} \cdot \vec{c} > 0$ であるとする。

(1) \vec{a} と \vec{b} の内積は $\vec{a} \cdot \vec{b} = \frac{\boxed{\text{アイ}}}{\boxed{\text{ウ}}}$ である。また $|2\vec{a} + \vec{b}| = \sqrt{\boxed{\text{エ}}}$ であり、 $2\vec{a} + \vec{b}$

と \vec{b} のなす角は $\boxed{\text{オカ}}^\circ$ である。

(2) ベクトル \vec{c} を \vec{a} と \vec{b} で表すと $\vec{c} = \frac{\sqrt{\boxed{\text{キ}}}}{\boxed{\text{ク}}} (\vec{a} + \boxed{\text{ケ}} \vec{b})$ である。

数学苦手でも合格したいならやるしかない！俺の解き方見てとにかく

まず数学2B6割狙うで！



第15問

四面体 $OABC$ において、 $|\vec{CO}|=2$ 、 $|\vec{CA}|=|\vec{CB}|=3$ 、 $\angle OCA = \angle OCB = 60^\circ$ 、 $\angle AOB = 90^\circ$ とする。

(1) 次の内積を求めると

$$\vec{CO} \cdot \vec{CA} = \vec{CO} \cdot \vec{CB} = \boxed{\text{ア}}, \quad \vec{CO} \cdot \vec{OA} = \vec{CO} \cdot \vec{OB} = \boxed{\text{イウ}},$$

$$\vec{CA} \cdot \vec{CB} = \boxed{\text{エ}} \quad \text{となる。}$$

また $|\vec{OA}| = |\vec{OB}| = \sqrt{\boxed{\text{オ}}}$ 、 $|\vec{AB}| = \sqrt{\boxed{\text{カキ}}}$ である。

(2) 辺 AB の中点を M とすると $\vec{CO} \cdot \vec{CM} = \boxed{\text{ク}}$ である。

さらに、線分 CM 上に点 P をとり、 $\vec{CP} = t\vec{CM}$ ($0 < t < 1$) とすると、 \vec{OP} と \vec{CM} が直

交するのは $t = \frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コサ}}}$ のときである。

数学苦手でも合格したいならやるしかない！俺の解き方見てとにかく

まず数学2B6割狙うで！



第16問

平面上の3点 O , A , B が $|\vec{OA} + \vec{OB}| = |2\vec{OA} + \vec{OB}| = |\vec{OA}| = 1$ を満たしているとする。

(1) \vec{OA} と \vec{OB} の内積は $\vec{OA} \cdot \vec{OB} = -\frac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}}}$ である。また、 $|\vec{OB}| = \sqrt{\boxed{\text{ウ}}}$ である。

したがって、 $|\vec{AB}| = \sqrt{\boxed{\text{エ}}}$ となる。

(2) 三角形 OAB の面積は $\frac{\sqrt{\boxed{\text{オ}}}}{\boxed{\text{カ}}}$ である。また、 O から辺 AB に下ろした垂線の

長さは $\frac{\sqrt{\boxed{\text{キク}}}}{\boxed{\text{ケコ}}}$ である。



一辺の長さが2の正三角形ABCの3辺AB, BC, CAの中点をそれぞれD, E, Fとする。 $0 < a < 1$ として、線分ADを $(1-a) : a$ に内分する点をO, 線分CEを $a : (1-a)$ に内分する点をPとし、直線OPと直線EFの交点をQ, 直線OPと直線DFの交点をRとする。さらに、 $\overrightarrow{AD} = \vec{x}$, $\overrightarrow{AF} = \vec{y}$ とおく。

(1) ベクトル \vec{x} , \vec{y} は $|\vec{x}| = |\vec{y}| = \boxed{\text{ア}}$, $\vec{x} \cdot \vec{y} = \frac{\boxed{\text{イ}}}{\boxed{\text{ウ}}}$ を満たす。

(2) ベクトル \overrightarrow{OP} は

$$\overrightarrow{OP} = (\boxed{\text{エオ}} - \boxed{\text{カ}})\vec{x} + (\boxed{\text{キ}} - \boxed{\text{ク}})\vec{y}$$

と表される。 \overrightarrow{OP} の大きさの2乗は

$$|\overrightarrow{OP}|^2 = \boxed{\text{ケ}} (a^{\boxed{\text{コ}}} - \boxed{\text{サ}} + \boxed{\text{シ}})$$

である。

(3) \overrightarrow{OQ} と \overrightarrow{OR} を \overrightarrow{OP} で表せば

$$\overrightarrow{OQ} = \frac{\boxed{\text{ス}}}{\boxed{\text{セ}} - \boxed{\text{ソ}}}\overrightarrow{OP}, \quad \overrightarrow{OR} = \frac{\boxed{\text{タ}}}{\boxed{\text{チ}} + \boxed{\text{ツ}}}\overrightarrow{OP}$$

である。($\boxed{\text{チ}}$ と $\boxed{\text{ツ}}$ は解答の順序を問わない。)

数学苦手でも合格したいならやるしかない！俺の解き方見てとにかく

まず数学2B6割狙うで！



第18問

三角形 ABC の 3 辺の長さがそれぞれ $AB=3$, $BC=a$, $CA=6$ であるとする。点 P は $a\vec{PA} + 6\vec{PB} + 3\vec{PC} = \vec{0}$ を満たすとする。また、 $\vec{AB} = \vec{x}$, $\vec{AC} = \vec{y}$ とおく。

(1) 直線 AP と直線 BC の交点を D とする。 \vec{AP} , \vec{AD} を \vec{x} と \vec{y} を用いて表すと、それ

ぞれ

$$\vec{AP} = \frac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}} + \boxed{\text{ウ}}} \vec{x} + \frac{\boxed{\text{エ}}}{\boxed{\text{イ}} + \boxed{\text{ウ}}} \vec{y}$$
$$\vec{AD} = \frac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カ}}} \vec{x} + \frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{カ}}} \vec{y}$$

となる。($\boxed{\text{イ}}$ と $\boxed{\text{ウ}}$ は解答の順序を問わない。)

(2) \vec{AD} と \vec{x} の内積を求めよう。(1) より、 $\vec{AD} \cdot \vec{x} = \boxed{\text{ク}} + \frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{カ}}} \vec{x} \cdot \vec{y}$ である。

また、余弦定理を用いると $\vec{x} \cdot \vec{y} = \frac{\boxed{\text{ケコ}} - a^2}{\boxed{\text{サ}}}$ であるから、求める内積は

$$\vec{AD} \cdot \vec{x} = \frac{\boxed{\text{シス}} - a^2}{\boxed{\text{セ}}} \text{である。}$$

数学苦手でも合格したいならやるしかない！俺の解き方見てとにかく

まず数学2B6割狙うで！



第19問

- (1) 平面内に点 O と三角形 ABC がある。点 P は $-7\overrightarrow{PA} + 13\overrightarrow{PB} + 11\overrightarrow{PC} = \vec{0}$ を満たすものとする。このとき $\overrightarrow{OP} = x\overrightarrow{OA} + y\overrightarrow{OB} + z\overrightarrow{OC}$, $x + y + z = 1$ を満たす x, y, z はそれぞれ $x = \frac{\boxed{\text{アイ}}}{\boxed{\text{ウエ}}}$, $y = \frac{\boxed{\text{オカ}}}{\boxed{\text{キク}}}$, $z = \frac{\boxed{\text{ケコ}}}{\boxed{\text{サシ}}}$ である。

数学苦手でも合格したいならやるしかない！俺の解き方見てとにかく

まず数学2B6割狙うで！



第20問

平面上に三角形 ABC があり，点 Q を $5\vec{QA} + 6\vec{QB} + 8\vec{QC} = \vec{0}$ を満たすようにとる。直

線 AQ と直線 BC の交点を M とすると $\vec{AM} = \frac{\text{ア}}{\text{イ}}\vec{AB} + \frac{\text{ウ}}{\text{エ}}\vec{AC}$ と表される。

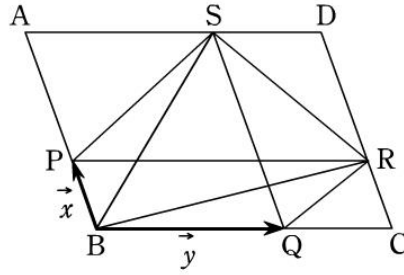
三角形 ABM と三角形 AMC の面積の比は $\triangle ABM : \triangle AMC = \text{オ} : \text{カ}$ で与えられる。

直線 AM が角 A の二等分線になるのは $AB : AC = \text{キ} : \text{ク}$ のときである。

まず数学2B6割狙うで！



平行四辺形 ABCD において、辺 AB を $a:1$ に内分する点を P、辺 BC を $b:1$ に内分する点を Q とする。辺 CD 上の点 R および辺 DA 上の点 S をそれぞれ $PR \parallel BC$, $SQ \parallel AB$ となるようにとり、 $\vec{x} = \vec{BP}$, $\vec{y} = \vec{BQ}$ とおく。



(1) 五角形 PBQRS の辺 RQ, SP および対角線 SB, RB が表すベクトルは, \vec{x} , \vec{y} を用いて

$$\vec{RQ} = -\vec{x} - \frac{\text{ア}}{\text{イ}} \vec{y}, \quad \vec{SP} = \text{ウエ} \vec{x} - \vec{y}$$

$$\vec{SB} = -(\text{オ} + \text{カ}) \vec{x} - \vec{y}$$

$$\vec{RB} = -\vec{x} - \left(\text{キ} + \frac{\text{ク}}{\text{ケ}} \right) \vec{y} \quad \text{となる。}$$

(2) $\vec{SP} \cdot \vec{x} = \vec{x} \cdot \vec{y} = \vec{y} \cdot \vec{RQ}$ が成り立つとする。

このとき, $\vec{x} \cdot \vec{y} = -\frac{\text{コ}}{\text{サ}} |\vec{x}|^2 = -\frac{1}{\text{シス}} |\vec{y}|^2$ である。



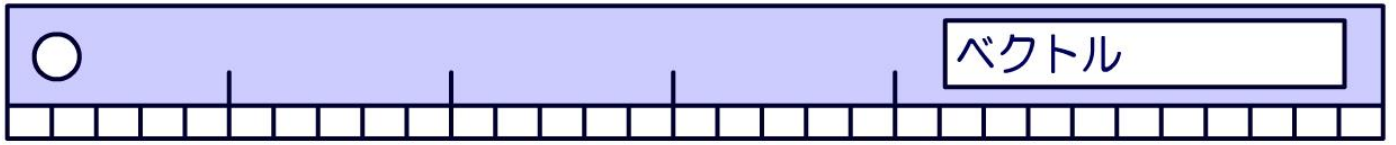
各辺の長さが1である正四面体OABCにおいて、線分ABの中点をP、線分OBを2:1に内分する点をQ、線分OCを1:3に内分する点をRとする。また、 $\overrightarrow{OA}=\vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB}=\vec{b}$ 、 $\overrightarrow{OC}=\vec{c}$ とおく。

(1) 次の内積を計算すると $\vec{a}\cdot\vec{b}=\vec{b}\cdot\vec{c}=\vec{c}\cdot\vec{a}=\frac{\text{ア}}{\text{イ}}$ である。

(2) $\overrightarrow{PQ}=\frac{\text{ウエ}}{\text{オ}}\vec{a}+\frac{\text{カ}}{\text{キ}}\vec{b}$ 、 $\overrightarrow{PR}=\frac{\text{クケ}}{\text{コ}}\vec{a}-\frac{\text{サ}}{\text{シ}}\vec{b}+\frac{\text{ス}}{\text{セ}}\vec{c}$ であるから

$\overrightarrow{PQ}\cdot\overrightarrow{PR}=\frac{\text{ソ}}{\text{タチ}}$ であり、さらに $|\overrightarrow{PQ}|=\frac{\sqrt{\text{ツ}}}{\text{テ}}$ 、 $|\overrightarrow{PR}|=\frac{\text{ト}}{\text{ナ}}$ を得る。

したがって、 $\angle QPR=\theta$ とするとき $\cos\theta=\frac{\text{ニ}\sqrt{\text{ヌ}}}{\text{ネノ}}$ となる。



end

